

111

演題 感染症に負けるな！！

副題 ～楽しい日常を取り戻そう～身近な地域資源の活用法～

法人名

施設名

発表者名
(職種) 伊藤 美香子

共同発表者 田代 亮平

共同発表者 山崎 悟

共同発表者

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所 横須賀市日の出町1-9-1

TEL 046-823-5137

FAX 046-823-6618

メールアドレス ichioka@keitokuen.or.jp

URL

今回の発表施設
またはサービスの
概要

特別養護老人ホーム 恵徳苑

《取り組みだ課題》

○コロナ感染拡大により、感染リスクから入居者様を守る為、閉鎖的なケアをせざるを得ない状況となっていた。○ボランティア・外部の方との交流が持たなくなってしまった。○外出を避けることで感染のリスクは減ったが、外に出られないストレスにより活気が失われていった。○季節感を肌で感じる機会が少なくなってしまった。○慰問がなくなり、楽しい時間が激減してしまった。○施設の中であっても他のフロアとの交流ができなくなってしまった。

○季節感を感じることが出来ず、気温も施設内の一定の気温しか感じられない

○担当フロアの垣根を越え、全体で支援していく事が当たり前の施設作り

♡皆さんの笑顔が見たい！！♡そんな職員の思いからから始まった。

《具体的な取り組み》

○行事委員会を発足し、季節を感じられる行事の企画や地域で開催されているイベントへ積極的に参加する。○お花見・夏祭り・紅葉ツアー・クリスマス会・新春カラオケ大会・初詣などの施設内行事の他、地域のコミュニティーセンターや公園などで行われるイベント(みこしパレード・菊花展・オペラ・オーケストラコンサート・よこすかシーサイドマラソン)に積極的に参加している。○施設のお食事の他、ご自身の好きなお食事を出前で注文するなど、日常に変化をつけ、楽しい時間を過ごしていただく。

《活動の成果と評価》

入居者様の様子

○自分たちの住んでいる地域を改めて考えるきっかけとなり、昔の記憶をたどる言葉を引き出すことができた。(職)思い出をたどる事で職員が入居者様をより深く理解することができた。○職員と多くのコミュニケーションを図り集中して会話をする事で、顔つきが明るくなり、意欲的な発言や行動が増えた。(職)楽しい時間を共有する事で、よりスムーズな信頼関係を構築できるようになった。○いつもとは違う風景、風にあたる、日光浴をすることで心も身体も健康になる事が実証できた。(職)昼間の活動量を増やし、日光浴をする事で昼夜逆転気味の入居者様の体内時計がリセットされ、良い睡眠に繋がっている。

○入居者は勿論であるが、職員自身のやりがいやモチベーションに繋がった。○「できない」ではなく「やってみよう！」という前向きな職員が増え、大変だが仕事に対する考え方が変化している。

《今後の課題》

○認知症周辺症状や身体障害によって参加する方に差が出ないような企画を実施していく。○一部の入居者様や職員だけではなく、施設全体が一丸となって取り組める行事運営。○行事を経験することで職員の介護観を変え、それぞれのスキルアップ・やる気に繋げていく。

○職員配置の状況などにより、フロアやユニット単位で入居者の外出の機会に差が出ない様施設全体として取り組む行事の運営に取り組む。